

1. 背景とねらい

りんどうに発生するリンドウホソハマキは、年により多発し被害も大きく防除が困難な重要害虫である。本種の発生生態や防除に関する知見は非常に少ないため、平成3年度から花き類病害虫発生予察実験事業で取り上げ試験中である。冷涼地での発生生態は未検討であるが、これまでに得られた知見について参考に供する。

2. 技術内容

1) 発生生態

枯茎の中に老熟幼虫で越冬し、県中南部平坦地では年3回発生する。県園試における平年の越冬世代の羽化始期は5月中旬、羽化揃期は5月下旬である。また、第1世代は7月中旬、第2世代は8月下旬を中心に羽化する。

2) 被害様式

(1) 葉の被害：孵化幼虫は卵殻の真下に穴を開けて潜葉し、葉肉を線状に食害する。また、第1世代では一度脱出した幼虫が再び上位葉に潜葉することが多い。潜葉期間は短い。潜葉痕は傷として残り変色することがあるので、多発すると商品価値が低下する。

(2) 茎の被害：茎の先端部を食害する。このため、その後展開する葉に左右対称の食害痕が出現する。第1世代に多くみられる。また、先端部や葉の付け根から茎に食入する。食入した幼虫は随部を主に下方に向かってトンネルを掘るように食害する。先端部から食入した茎は当初はしおれ、やがて心枯れ症状を呈する。

(3) 花蕾の被害：第2世代及び第3世代幼虫は花蕾にも食入し子房を食害する。

3) 防除対策

(1) 多発圃場では秋～春に越冬場所である枯茎を焼却処分する。また、生育期に被害茎を見つけたら処分する。

(2) 重点防除世代は第1世代なので、越冬世代の羽化始期から羽化揃期に防除する。特に羽化揃期防除は効果が高い。

(3) 第2世代と第3世代は他害虫との同時防除も兼ねて、第1世代と第2世代の羽化時期に防除する。

3. 指導上の留意事項

1) 冷涼地における越冬世代の羽化時期は県園試より遅いと思われるが未検討である。また、平均気温を利用した羽化時期の予測は現在試験中である。よって、多発圃場では春先に枯茎を集め網をかぶせて、越冬世代の羽化状況を調べ防除時期を決定することが望ましい。

2) リンドウ科のトルコギキョウに発生した報告はない。

4. 試験成績概要

表1 越冬世代の羽化時期（北上市）

年 度	羽化始期	羽化盛期 ^{a)}	羽化揃期 ^{b)}	羽化終期
平4年	5月4半旬	5月5半旬	5月6半旬	6月4半旬
平5年	5月4半旬	5月5～6半旬	5月末～6月1半旬	6月5半旬

a) 羽化率 50%、b) 羽化率 70～80%

表2 リンドウホハマキに対する数種殺虫剤の防除効果

薬 剤 名	濃 度	散布前 卵 数	未孵化 卵 率	葉の ^{a)} 被 害	幼虫数
ピレスロイド剤A	1500倍	148	98.8 %	0	0
有機燐剤A	1000	104	72.2	29	5
有機燐剤B	1000	74	56.8	23	6
無 散 布	—	35	11.9	69	19

a) 潜葉痕数+再潜葉痕数

表3 越冬世代の羽化状況に応じたピレスロイド剤の散布適期（100茎当り）

薬 剤 名	散 布 時 期	越冬世代 の羽化率	葉の ^{a)} 被 害	茎の被害	生存 虫数	
ピレスロイド剤A	5/17	3.5 %	12.4	5.2% ^{b)}	6.0% ^{c)}	4.8
〃 B			12.6	3.8	7.0	5.6
ピレスロイド剤A	5/24	42.6	9.2	5.0	4.2	3.1
〃 B			9.4	4.6	5.9	3.1
ピレスロイド剤A	6/1	76.9	6.9	3.6	3.8	2.4
〃 B			3.3	2.4	2.4	2.0
無 散 布	—	—	56.2	19.0	25.5	24.8

a) 潜葉痕数+再潜葉痕数 b) 生長部食害茎率 c) 食入茎率